

第 34 回市民とともに考える救急医療シンポジウム

救急医療を要する生活習慣病と救急搬送の現状
～脳血管疾患と心疾患の予防と治療の最新～

令和 7 年 9 月 6 日（土）午後 2 時開演
船橋市勤労市民センターにおいて



主催

船橋市救急医療シンポジウム実行委員会

船橋市医師会、千葉県看護協会船橋地区部会、船橋市自治会連合協議会、船橋市 PTA 連合会、
船橋市全婦人団体連絡会、船橋市老人クラブ連合会、船橋商工会議所、船橋市赤十字奉仕団、
船橋市社会福祉協議会、船橋市消防団、船橋労働基準監督署、船橋市、船橋市消防局、
船橋市教育委員会

後援

千葉県、千葉県医師会、船橋交通安全協会、船橋東交通安全協会、船橋市自衛消防協会、
船橋市保育協議会、船橋市私立幼稚園連合会、船橋市福祉サービス公社、船橋市医療公社、
ふなばし健やかプラン 21 市民運動推進会議、NPO 法人千葉県 ACLS 協会

目 次

〈第 34 回市民とともに考える救急医療シンポジウム〉

救急医療を要する生活習慣病と救急搬送の現状

～脳血管疾患と心疾患の予防と治療の最新～

①救急医療シンポジウム

概要		1
開会セレモニー		5
基調講演の部		8
シンポジウムの部		26
総括		45
アンケート調査結果		46

②心肺蘇生法講習会 49

第 34 回市民とともに考える救急医療シンポジウム

救急医療を要する生活習慣病と救急搬送の現状
～脳血管疾患と心疾患の予防と治療の最新～

概 要



令和 7 年 9 月 6 日午後 2 時から、船橋市勤労市民センターにおいて、「第 34 回市民とともに考える救急医療シンポジウム」を開催しました。

今年のテーマは「救急医療を要する生活習慣病と救急搬送の現状～脳血管疾患と心疾患の予防と治療の最新～」。225 人が来場し、好評のうちに終了いたしました。

また、同会場内では、船橋市消防局による「救急フェア」も開催いたしました。心肺蘇生法体験コーナーでは、多くの方々にいざという時の対応方法を学んでいただきました。

《心肺蘇生法体験コーナー（ホール前）》



《心肺蘇生法体験コーナー（展示室）》



《啓発コーナー（展示室）》



《パネル展示コーナー（展示室）》



《パネル展示コーナー（ホール前）》



救急医療シンポジウム

(大会会長)	松戸 徹	(船橋市長)
(実行委員会委員長)	鳥海 正明	(船橋市医師会 会長)
(総合司会)	渡邊 千代美	(船橋市赤十字奉仕団 委員長)
(基調講演講師)	樋口 佳則	(千葉大学医学部附属病院 脳神経外科 教授)
(基調講演座長)	加藤 佳瑞紀	(船橋市医師会 理事)
(シンポジスト)	手塚 達也	(船橋市消防局救急課救急指導係 救急救命士)
	内藤 博道	(船橋市立医療センター 副院長)
	古賀 敬史	(千葉徳洲会病院 循環器内科部長)
(シンポジウム司会者)	加藤 佳瑞紀	(船橋市医師会 理事)
	深沢 琢也	(船橋市医師会 理事)

※敬称略

救急フェア

船橋市消防局

(実行委員会構成団体)

船橋市医師会、千葉県看護協会船橋地区部会、船橋市自治会連合協議会、船橋市PTA連合会、船橋市全婦人団体連絡会、船橋市老人クラブ連合会、船橋商工会議所、船橋市赤十字奉仕団、船橋市社会福祉協議会、船橋市消防団、船橋労働基準監督署、船橋市、船橋市消防局、船橋市教育委員会

開会セレモニー

総合司会 渡邊 千代美
(船橋市赤十字奉仕団 委員長)



こんにちは。本日は、お暑い中、ようこそお越しくださいました。

ただいまから、「第34回市民とともに考える救急医療シンポジウム」を開会いたします。

私は、当シンポジウムの実行委員会委員であり、本日の進行を務めさせていただきます渡邊千代美と申します。よろしくお願い申し上げます。(拍手)

本日の手話通訳と要約筆記は、船橋市福祉サービス公社の皆様をお願いしております。

「市民とともに考える救急医療シンポジウム」は、市民に対する救急医療への意識の高揚、心肺蘇生法の普及・啓発を図ることを目的とし、平成元年より開催しているイベントの一つです。

このシンポジウムは、船橋市の救急医療体制について紹介し、時節に合ったテーマを取り上げて開催しております。

今回のタイトルは、「救急医療を要する生活習慣病と救急搬送の現状～脳血管疾患と心疾患の予防と治療の最新～」でございます。

脳血管疾患や心疾患といった命に関わる重大な疾患が日頃の生活習慣により引き起こされることをご存じでしょうか。こうした緊急性の高い病気は、日頃の生活習慣に影響を受けているため、健康を維持し、安心して暮らせるようにするには、正しい生活習慣と救急医療の知識を身につけておく必要があります。

今回は、生活習慣病に関する正しい知識や、いざというときの生命線となる私たちのまちの救急搬送の現状について学び、考えてまいりたいと思います。

それでは、開会に当たりまして、大会会長であります松戸徹 船橋市長からご挨拶をお願いいたします。

大会会長 松戸 徹 (船橋市長)



皆様、こんにちは。市長の松戸でございます。

34回目を迎える「市民とともに考える救急医療シンポジウム」、暑い日になりましたけれども、今回も多くの方の市民の皆様にご参加をいただいていること、市としても大変心強く思っております。

ただいま渡邊千代美さんからご紹介があったように、このシンポジウムは平成元年から行っており、コロナの間、3年間だけ実施できなかったため、今回が34回になります。

このシンポジウムがスタートしたきっかけというのは、非常に先進的な地域医療の体制を、船橋市医師会を中心に、いろいろな方のご尽力によって整えてきていた中で、特に市として地域医療の体制を構築すると同時に、実際に何かが起こったときに、市民の皆さんに救急の対応を学んでもらい、少しでもいいから対応できるようにしていく。そういった厚みを持つことで、船橋の地域医療がしっかりとしたものになって

いくのだという理念の下にスタートいたしました。

今回のシンポジウムも、船橋市医師会会長の鳥海先生に実行委員長をやっていただき、いろいろな関係団体の皆様にも参加していただいて、今回のテーマになっております。

船橋市は、今、人口が65万人を超えております。そして、先ほど申し上げましたように、医師会を中心に、いろいろな医療関係団体の皆様にも協力をしていただき、地域医療の体制の構築がしっかりと前に進んでいるわけであります。そういった中で、今、救急搬送の件数が非常に多くなってきており、消防局としてもその対応に非常に苦慮している部分もあるわけですが、市民の皆さんが今日のテーマに沿っていろいろなことを学んでいただき、もしも自分の隣にいる家族や友達がそういった状況になったときに、しっかりとアドバイスをする、初動の態勢を取ってもらえるようにすることが、船橋市の安全をしっかりとしたものことに結びつきますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

今日は、千葉大附属病院の樋口先生にご講演をいただいた後にシンポジウムがございますけれども、その内容を、ぜひとも今日おいでいただいているお知り合いの方、家族の方にお話ししていただければと思います。

そして、最後になりますけれども、船橋市はAEDの配置についてもずっと力を入れてきており、今、市内に730台のAEDが配置されております。公共施設もそうですが、200軒ぐらいのコンビニにも置いてあります。ですから、もしもAEDが必要な場合には、24時間対応できますので、お近くのコンビニに駆け込んでいただいて、ご利用いただければと思います。実際に、令和6年度は、7件の使用件数のうち5人の方が命を救われております。そういった面でもご理解をいただいて、ご協力をいただければ

と思います。

今日のシンポジウムが市民の皆様の命を救うための大きな力になることを心から期待をして、ご挨拶とさせていただきます。これからよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。(拍手)

総合司会 渡邊 千代美

ありがとうございました。

今回の救急医療シンポジウムの実行委員会委員長であります鳥海正明 船橋市医師会会長からご挨拶をお願いいたします。

実行委員長 鳥海 正明（船橋市医師会長）



皆様、こんにちは。もじゃもじゃヘアの鳥海でございます。

本日は、暑い中救急医療シンポジウムにご参加いただきまして、ありがとうございます。

今日は、千葉大学の樋口教授から脳神経に関する特別講演をいただき、またシンポジストとして、船橋市内で活躍している心臓の専門家、脳神経の専門家、そういった先生方からのありがたいお話があるはずです。

私は、それらの基本となってしまうかもしれない生活習慣病の治療を日頃からやっている評判の悪い医者ですが、そういったことになってはいけない、なるべく救急車のお世話に

ならないようにするためにできることがあるということも意識していただきながら、今日の講演、シンポジウムを役立てていただければと思います。

ご参加いただいた皆様方、まだまだ暑い日が続きますので、熱中症で救急車に乗ったり、浮気性で救急車に乗ったり、そういうことのないように気をつけて、すばらしい残暑を過ごしていただければと思います。

今日はよろしくお願いいたします。(拍手)

総合司会 渡邊 千代美

ありがとうございました。

それでは、市長、実行委員長、ご降壇ください。(拍手)

これより、ステージにて基調講演の部の準備を行います。この空いた時間をいただき、本シンポジウムの実行委員を紹介させていただきます。

それでは、実行委員の皆様、ご起立をお願いいたします。

本シンポジウムは、実行委員会により企画・運営が行われております。本日のプログラムに掲載しております実行委員会構成団体の皆様でございます。よろしくお願いいたします。(拍手)